

千二小・二十七回生
日清食品ホールディングス常勤顧問
カップヌードルミュージアム館長
筒井之隆氏の紹介

編集部



千里山で筒井家と言えば皆さんピンとこられるでしょう。作家にして俳優の康隆氏を筆頭に、男4人兄弟で、今回登場願うのは、4番目つまり末弟の之隆氏です。氏は冒頭に掲げましたように、昭和三十一年卒・二十七回生です。

之隆氏の紹介に入る前に、筒井家の紹介をさせていただきます。

理由は、長兄である康隆氏以外は全員千二小一中ですから、千里山会・会員の中には大勢の同級生がおられると思います。また当時のご自宅近所にお住まいだった方も結構おられるのではないかと、思います。

お父さん …筒井嘉隆氏 草分け期の日本の動物生態学者で、大阪市立自然科学博物館（現自然市博物館）の初代館長。昭和19年に千里山に疎開されるまでは、大阪市北堀江にお住まいであった。
千二小PTA会長もされた。

長兄康隆氏…あまりにも有名で紹介の必要がないようにも思いますが、一応 記します。

昭和9年生まれ。南田辺国民学校入学。昭和19年より千二小に移るも、大阪市立中大江小に転校。理由はあまりにも有名なので省略。大阪市立東中学・春日丘高校―同志社大学 今日に至る。

次兄正隆氏

…千二小 22回生―一中―茨木高校
―大阪大学

中学・高校ではテニス部に所属
昭和62年に亡くなられた。

次々兄俊隆氏…千二小 23回生―一中―春日丘高校
―大阪大学

昭和36年2月にSFマガジンに『消去』という作品を載せる。
その後、雑誌「宝石」に、『相撲喪失』を発表。
電通常務をされ、現在芦屋市在住。

ご本人之隆氏

…千二小 27回生―一中―桃山学院高校―同志社大学―読売新聞社入社―日清食品マーケティング部長―宣伝部長―常務取締役―常勤顧問―現館長
カップヌードルCM「ハングリー」で日本企業唯一のキャンヌ国際広告映画祭グランプリ受賞。
趣味はビッグバンドでテナーサクスを吹かれています。

家族での執筆活動

長兄康隆氏は、昭和34年に創刊された雑誌『SFマガジン』に衝撃を受け、翌年、ボーンナスを次ぎ込んでSF同人誌『NUL』を創刊。同人とは、お父さんと4人の兄弟であり、康隆氏、正隆氏、俊隆氏がSF短編を、父嘉隆氏が家族の紹介文を、之隆氏がカットを担当。

同人誌を出したのは当時、SF小説が受け入れられるような新人賞がなかったためであるが、マスコミに取り上げられ、「筒井一家」紹介記事がたびたび新聞に掲載、また毎日放送のTV番組に家族総出演でもされている。さらに『NUL』創刊号は江戸川乱歩の目に留り、康隆氏だけでなく、他のお兄さんの作品やお父さんの紹介文も雑誌『宝石』に転載。

蛇足

* 康隆氏の作品に小説『筒井順慶』があり、戦国武将筒井順慶の子孫であるとの設定で書かれています。ただ、筒井家は奈良大和郡山出の一族で

あることは事実である。
* 衆議院議員・筒井信隆氏、俳優・筒井道隆氏とは名前が似ているが、姻戚関係は全くないそうです。

筒井之隆氏を職場に訪問

筒井之隆氏のお名前は2007年版の千里山会名簿には載っています。お住まいは世田谷区弦巻ですが、総会に出席されたことはないはずで、私（萩原）は全く知りませんでした。

今回もまた千里山在住の西田悠紀夫氏が教えてくれました。また、と言うのは、西田氏から、今までどれほど多くの首都圏在住の千二小卒の方を、紹介していただいたことでしょうか。

昨年の第十八回千里山会・総会の後、二十七回生の高見、林、城戸（旧姓吉田）さんに私の四人が、氏が勤める『カップヌードル・ミュージアム』に向いました。西田氏から聞いた携帯電話番号で、既に筒井氏とはアポを取ってあります。



林 裕三 筒井 之隆
城戸 (吉田) 三千代 高見 信雄 萩原 直大

確か、体も大きく、運動万能、しかも大きなお兄ちゃんがゴロゴロとのイメージで、お名前は知っていましたが。
そして館内の案内はもとより、懐かしい話も交え、楽しい一時間を過ごしました。

正式名称「安藤百福発明記念館」は、横浜のみならず、みらいにあり、目の前に海が広がり、並びにはパシフィック横浜、ヨコハマグラウンド・インターコンチネンタル・ホテル、赤レンガ倉庫などがあります。
我々四人は桜木町駅を降り、夕暮れ迫る中、横浜ランドマークタワーを左に、手前に三本マストの美しい帆船日本丸を見て、運河を横切る汽車道を進みました。その先にはよこはまコスモワールドの観覧車が眺められます。いや、こんな素晴らしい場所でお仕事をされているとは・・・

ミュージアムに着くと、一般客の入館時間である17時は既に過ぎていたが、閉館は18時なので、まだお客さんは結構、おられました。我々の来館を伝え、5階のオフィスに案内してもらいました。

ここからの横浜港の眺めがまた最高なのです。そして直ぐに氏が現れました。私自身は小学校卒業以来の再開ですから、昭和31年以来ということになります。他の方はともかく、私は1年から6年まで、一度も同じクラスになったことがないので、一緒に遊んだ記憶はありません。

筒井氏の話より

* ミュージアム設立目的

15年前、大阪・池田市の日清食品創業者・安藤百福の自宅があった場所に、「インスタントラーメン発明記念館」が造られた。
年間60万人を超える来館者があるが、そのほとんどが関西の方なので、東日本の方々にも創業者が抱き続けた想い、彼の功績を伝えたい、
更に海外の方にもインスタントラーメンが日本発祥のものであると知っていただきたい。そういったことから「関東にもミュージアムを造ろう！」となった。

* ミュージアムのコンセプト

安藤百福は早くに両親を亡くし苦労を重ね、独立独立で大きくなった人で
「人間は食べていかないといけない。食べ物がないと世の中が乱れて平和にならない」との想いを持ち、インスタントラーメンを発明した。
その自分の体験から「発明・発見は、お金や大勢の

人、立派な施設がなくても自分の頭の中にある発想で実現できる」という「クリエイティブ・シンキング（創造的思考）」をコンセプトにしている。

* なぜ記者であった筒井氏が館長？

氏は読売新聞社の記者時代、安藤百福氏をずっと取材し、百福氏からも全面的信頼を受け、41歳の時に日清食品に転職。

百福氏が07年に亡くなるまで22年間、側近として仕えた。11年9月にこのミュージアムがオープンした時、百福氏を一番知る人は、筒井氏であったことが館長就任の理由。

* ミュージアムの説明

オープンして3年、300万人を超える来館者数を記録。高校生以下は入館料が無料、リピーターが多い。この施設の特徴は三世代で遊びにいられている家族が多いこと。

館長自らの案内で、2Fと4Fを案内して頂いた。3千点を超えるインスタントラーメンのパッケージが展示されているコーナーがあれば、自分だけのカット

ブヌードルを作ることができる「マイカップヌードルファクトリー」があり、「チキンラーメンファクトリー」では、実際にチキンラーメン造りが体験できる。また、世界中の麺が食べられるフードコートコーナーもあった。

* 筒井館長お気に入りの展望

みなとみらいの中で、氏が一番好きな場所はこのミュージアムの5Fオフィス窓から見えるタグボートの発着所。

タグボートが何艘か係留されているが、氏はその一艘一艘に名前を付けている。太郎、次郎、花子って。「いや、可愛いしよく働く。あんなに小さいのに大きな客船や貨物船を一生懸命引っ張っている。仕事を終えたらまたここへ戻ってきて、モーターを逆回転させながら船尾から接岸。それを見ていると飽きない」と説明を受けました。

確かに我々の目にも、遠方に豪華客船が接岸し、眼下にはタグボートが数艘休んでいるのが見えました。

仲間からのコメント

24回生 奥田さんから

昭和30年代、千里山では、毎晩「夜泣きそば屋」がチャルメラを吹きながら流していて、たまに夜食に買って貰っていました。

小生がチキンラーメンを初めて食べたのは、受験勉強に取り組んでいた時、安藤百福氏が発明して売り出された昭和33年だったと、はっきり覚えています。

どんぶりに袋の中身を空け、葱を刻んで散らし、熱湯を注いで蓋をすれば、すぐ食べられ、チキン味のスープをとっても美味しく感じました。

たまに生卵を落とせば、ご馳走になりました。

小生はいわゆる有名ラーメンには、興味がなく、(息子は車で遠くまで、食べに行っているようですが)、チキンラーメンは我が家の常備薬になっています。袋も味も昔とあまり変わっていないし、麺の真真中に卵を落とすための、窪みが出来たくらいでしょうか？

安藤百福氏は千里山ともご縁があるようで、恐らく池田市に移られる前に、藤田氏の近くに住んでおら

れたという話を聞いたことがあります。

小生は不覚にも横浜ラーメン博物館が二つあることを知らず、新横浜にあるとばかり思っていました。

手軽なインスタントラーメンと有名なラーメンは全くコンセプトが異なり、それぞれ隆盛を極めているのに全く迂闊でした。

新横浜までわざわざ行く積りはありませんが、みなとみらいなら、年に何回か行くので、次は必ず拝見させて頂きます。

影の声…「無理、ムリ、むり」 そんなに簡単には入れません。1と2時間、待つ気なれば別ですが？

宮林さん(旧姓 村田 27回生)から

千里山の赤壁薬局から上がって2軒目、に住んでいた村田です。明石和子さんと之隆さんのお誕生会にお呼ばれた思い出があります。

私は東京へ来て45と6年になります、又その内同期会でもお目にかかれれば、と思えます。

筒井之隆 君の思い出

二十七回生 林 裕三

私が山へ行くようになったのは、中学一年の時、彼と同じクラスになったことに起因する。多分、入学してそんなに経っていないとき、彼のお父さんが館長をされていた大阪市立自然史博物館主催の滋賀の比良山への一泊二日の山行に誘ってくれたのであった。割に大きな山小屋に泊まった翌朝、早く起きて歩き出すのである。鳥の鳴き声があると「あれは何々鳥だ」と係員のお兄さんが教えて頂いたり、珍しい植物があると同様に名前を覚えて頂いた。今でも、山で朝歩き出す時、あの時の朝の青々した木々の道を、鳥の鳴き声を思い出す。

植物と言えば、湿原地八雲ヶ原の「モウセンゴケ」だ。食虫植物と言う説明にも中学一年生にとっては興味があった。今ほど厳しく言われなかったのか、ここだけの話、一人で家へ帰って帰って一年は育てていたと思う。(思い出の比良山、特に八雲ヶ原に再訪したくなり、二年程前、家内を連れて行ったが、八雲ヶ原は見ると回復活動しておられる人がいるとか)

それに、学校からの帰りは彼と一緒にだった。いつも色々話してくれた。彼は自分からべらべら話すやつでなく、多分私が「何で何で？」と聞くからこんなこと知らないのかとニヒルな顔して話してくれた。このように、彼は私の知らないことを話してくれ、また連れて行ってくれた。作家である彼のお兄さんのお部屋を見せてくれた時は、本の多さにビックリした。病気がちだった私は彼のノートを良く借りた。とても綺麗にまとめてあった。時々手塚治虫の漫画キャラクターが描かれていて、非常に上手かった。そうそう、彼とT君と三人で秘密結社みたいなものを創った。リーダーである彼は、私たちに名刺大の手造りのメンバーズカードを渡してくれた。このカードを持っていることは「自分たちは仲間である」と言うことで嬉しかった。このカードの出来と描かれたイラストは今思い出して、も立派なものであった。

ご両親も背が高かったからか、彼も背が高く、スポーツ万能でかっこ良かった。そう、同じ大学で何年ぶりかで彼の姿を見た。2、3回は見た。いつも女の子に囲まれていた。悪いかと思ったので声もかけなかったが、初めて見たときはフェンシングのユニフォームを着ていて相変わらずかっこいいやつだった。

完

余話 一 インスタントラーメン クイズ

次の質問の答えはこの項の最後にあります。

- ① 日清食品ホールディングスは即席麺世界で何位でしょう？
ア. 1位 イ. 2位 ウ. 3位
さてア〜ウどれでしょう？
- ② 即席麺の年間世界需要は
ア. 10億食 イ. 100億食 ウ. 1000億食 を超えた。さてア〜ウどれでしょう？
- ③ カップヌードルは既に世界〇〇か国で販売
ア. 60か国 イ. 80か国 ウ. 100か国 さてア〜ウどれでしょう？

④ 次の麺はこの国？

- ア. フォー イ. パスタ ウ. ラクサ
エ. ミーゴレン オ. バーミンナム
カ. メンミョン キ. ラグマン

余話 二 インスタントラーメンの父

安藤百福（ももふく） 1910年〜2007年
日清食品創業者

即席麺の歴史

1958年 奥さんの天ぷらをヒントに麺を油で揚げて乾燥させる製法を確立し、インスタントラーメンとして世に出した。(チキンラーメン)

1971年 カップヌードルの誕生
アメリカ視察の折に、スーパリーの担当者たちがチキンラーメンを小さく割ってカップに入れ、お湯を注いでフオークで食べているのを見て、カップヌードルを思い付く。ここから「世界食」に。

2005年 宇宙食「スペース・ラム」実現
「宇宙食を開発したい」は、百福が抱いた夢。無重力状態で食べるための様々な工夫が加えられていたが、その基礎はチキンラーメン同様の瞬間油熱乾燥法であった。

逸話 戦前の一時期、安藤百福は、吹田市千里山に自宅があった。

三軒隣に若かりしころの藤田田が住んでいた。藤田がふらつと安藤の自宅を訪ねたことがある。当時、大阪では、安藤は資産家として名が通っていた。若い藤田が先輩企業家である安藤に経営相談にでも来たのだろうか。話した内容は記憶にない。それから25年以上たつて、1971(昭和46)年、藤田は日本マクドナルドを創業し、銀座三越に一号店を開く。同じ年、安藤はカップヌードルを開発し、銀座歩行者天国だった三越前で試食販売をする。奇しくも、戦後日本を代表する二つのファストフードが銀座で出会い、スタートした。不思議な運命の糸を感じさせる逸話である。

筒井之隆氏が編纂した「転んでもただでは起きるな! 定本・安藤百福」より、氏の許可を得て、引用。

った。

三、1940年代 清国人(華僑)が、横浜中華街を造り中国から柳麵を伝え、これがラーメンの始まりという横浜中華街が発祥の地という説がある。宋の時代に書かれた居家(きよか) 必用事類全集(家庭百科事典のようなもの)を、室町時代の五山文学の盛んなころに、禅僧が日本に持ち帰った。この居家必用事の中に六種類の麵の料理のレシピがあるが、その中にかん水を使用した麵を造っていたとある。うどんとラーメンの決定的な違いは、小麦粉にかん水を用いて麵を造ることである。かん水を入れると、麵は黄色みをおびてちじれるのが特徴である。日本国内でラーメンを食したのは、室町時代が最初であったと思われるが、五百年の歳月を経て、いま日本ラーメンが全盛期を迎えられたのは、かん水を入れた麵は、作りにくく機械で練り、機械で切ることが出来るようになった今日、中華料理と共に食されるうちに、出汁や麵に特徴を持たせ、ご当地色や特徴をだしたラーメンが全盛期を

余談 日本ラーメンの始まり

ラーメンの語源

- 一、中国西北部に位置する蘭州の麵の一種「拉麵(ラオミエン)」に由来する説
- 二、老麵(ラオミエン)に由来する説で、一部の辞典はラーメンの項目で「拉麵」とともに「老麵」という漢字表記も採用している。
- 三、1922年、北海道札幌市に開店した「竹屋」という食堂が由来という説で、店主の妻が厨房の中国料理人が大声で「好了(ハオラー)」と告げるアクセントが気に入って印象に残り、「ラーメン」にしたという。

ラーメンの発祥地

- 一、1697年 水戸黄門は、西山荘を訪れた僧や家臣らに中華麵を振舞われたとの記録がある。
- 二、1910年 東京浅草の尾崎貫一が横浜中華街料理人12名を雇って中華料理店「来々軒」を開店し、大人気となった。その主力メニューは、当時は南京そば・支那そばなどと呼ばれたラーメンだ

迎えたという。

インスタントラーメン クイズの答え

- ① イ・2位 ちなみに1位は康師傅を傘下に持つ台湾系の頂新国際集団で2013年に抜かれた。
- ② ウ・1千億食を超え、新興国を中心に伸び、10年後には1300億〜1400億食になる見通しを立てている。
- ③ イ・カップヌードルは既に世界80か国で販売されている。グローバル企業としての認知度も高まる。日清から世界の「NISSIN」へ。
- ④ ア・フォー・ベトナム イ・パスタ・イタリア ウ・ラクサ・マレーシア エ・ミーゴレン・インドネシア オ・バーミンナム・タイ カ・メンション(冷麵)・韓国 キ・ラグマン・カザフスタン